

あなたの見つけた「困った」が地域の課題を解決する！

千葉市民協働レポート(ちばレポ)

By 千葉市

防災
減災

少子
高齢

産業
創出

防犯
医療
教育等

あなたが見かけた公共インフラの不具合を位置情報・写真・動画で報告！
市民協働で地域課題を共有し、効率的に解決できるスマートフォンアプリです。**(2014年 サービス開始)**

公共インフラの不具合をアプリで報告すると、
市行政が対応・報告してくれる

ちばレポ 誕生の キッカケ

- 千葉市は公共インフラの不具合対応状況を市民になかなか認識してもらえなかった
- 千葉市は緊縮財政等で土木関係職員数を削減しており、老朽化したインフラを限られた人数で維持管理・更新することが課題になっていた



ちばレポ でこう 変わった！

- 不具合対応状況が「見える化」されることで、千葉市と市民が協力して地域のインフラ管理に取り組む意識が生まれた
- 不具合をクラウド上で一元管理・共有することで、行政部門ごとの連携がスムーズになり、道路管理業務および千葉市行政の効率化に繋がった



スマートフォン版トップ画面

タイトル
ごみ捨て防止強化区域の看板が見えません
内容
せっかくの看板がちゃんと掲示されておらず、見えません。 ご対応をお願いいたします。



市役所担当課からのコメント
2015/12/28 15:26 レポートを受けました。確認いたしますので、しばらくお待ちください。
2016/01/08 11:47 新しい看板に付け替える予定です。
2016/01/20 9:19 1月19日に新しい看板を取り付けました。
対応完了日
2016/01/20



あなたの見つけた「困った」が地域の課題を解決する！

千葉市民協働レポート(ちばレポ)

By 千葉市

防災
減災

少子
高齢

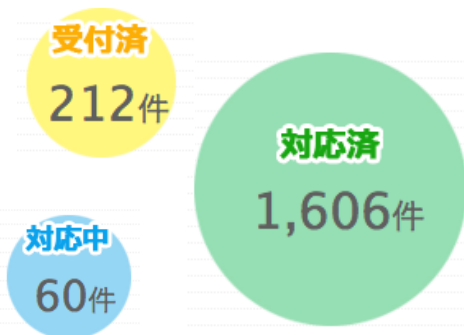
産業
創出

防犯
医療
教育等

ちばレポが生んだ“行政の効率化”

ちばレポは千葉市内で起きている公共インフラの課題(例えば道路が痛んでいる、公園の遊具が壊れているなど)を、市民の投稿したレポートをオープンデータとして活用することで効率的に課題を解決している。

市民からのレポートはクラウド型CRM(顧客管理)システムによるデータベースで一元管理され、Web上のマップに表示されることで、不具合情報が可視化される。それらを見ながら担当課に振り分けている。



(公式HPより レポートの対応状況を表示している)

ちばレポが持つ既存の市民情報投稿サイトと異なるユニークな点は、このデータベースを行政内の業務フロー改善・効率化に活かしていることである。担当課がこれまでFAXや電話で対応し、Excelや紙で管理していた年間約13,000件にのぼる情報は、ちばレポではデータベースで一元管理される。実際に現場に向かう作業員にとってデータが写真・位置情報と紐づいていることは、作業効率の向上に繋がる。

ちばレポはサービス開始から1年半でレポーター数が約2800人、2,000件にものぼるレポートが寄せられ、既に1,600件以上が対応されている。データを集める基盤を用意することで、市民が中心となった課題解決ができるだけでなく、市政自体も効率化を実現した。

使用データ

市民の投稿したレポート



データ形式

緯度経度情報(GPS)、JPG、mpeg等

提供形態

スマートフォンアプリ



受賞歴

総務省
地方創生に資する「地域情報化大賞」奨励賞

地域

千葉市



市長が掲げる “ガバメント2.0”

ちばレポを生み出した千葉市を束ねるのは、通信業界出身で政令指定都市の首長として最年少の熊谷市長である。

彼は政策のひとつに「ガバメント2.0」(=市民による公共事業)を掲げ、様々なオープンデータ施策に取り組んでいる。自由な行政データ活用を進める上で、ちばレポの「協働」というアクションは更なるオープンデータ活用のきっかけとなりそうである。